

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 議 長 | 局 長 | 次 長 | 係 長 | 係 長 | 課 員 | 担 当 |
| | | | | | | |

第 35 回議会改革推進会議 会議記録簿

| | | | |
|------------|--|------------|-----------------------------------|
| 開 催 日 | 平成 28 年 10 月 14 日 (金) | 場 所 | 特別会議室 |
| 開催時間 | 午後 3 時 30 分～午後 4 時 45 分 | 休憩時間 | 時 分～ 時 分 時 分～ 時 分 |
| 出席委員 | 全 員 ・ 欠席 3 名 (山口健一委員、小野寺勝也委員、濱欠明宏委員) | | |
| その他 出席者 | 八重櫻友夫議員、城内仲悦議員 | 事務局 出席者 | 澤口道夫事務局長、及川忠則次長、 皆川賢司係長、長内紳悟主査 |

(適用・要旨)

進行：座長 中平浩志議長

○協議案件

(1) 議会活動チェックシート（当年度計画）について

・既に一部で事実上の取組みが進んでいる計画項目もあるが、改めて議会活動チェックシート上に落とし込んだ事務局調製案について協議いただきたい。(中平浩志議長)

【議員定数の適正化】

・適正定数の検討にあたって市民意見を参考とするため、「かだってレター」を実施することについてどうか。(中平浩志議長)

・幅広い意見を募集するものであり、とてもよい取り組みだと思う。(城内仲悦議員)

・今回は議員定数に限っての「かだってレター」と理解してよいか。(澤里富雄委員)

・議員定数の検討にあたっての参考とするため、議会に対する幅広い意見等を募集するものであり、議員定数が多いか・少ないかの二択の意見を募るものではない。議会に対する素朴な疑問やあり方といった意見等でもって、こういう視点から市民は議会を見ているといったポイントを検討材料に繋げたいという狙いである。

なお、頂いた全ての意見等について議会のあり方検討会議の参考資料とするほか、必要に応じて議会改革推進会議で政策検討すること、また緊急性があるものは議長の判断で市へ情報提供することを予定している。(事務局 長内)

・議会全般に対する意見募集であれば、あえて議員定数に触れる必要はないのではないか。
(佐々木栄幸委員)

・議員定数を検討する前提で「かだつてレター」を今回実施するものであるので、定数に触れることは必要と考える。住民に向けて避けては通れない話題でもある。(中平浩志議長)

・どのような意見が頂けるか実施してみて、そこで不都合があれば見直しを検討すればよいのではないか。(高屋敷英則委員)

・チェックシートについて事務局調製案のとおり決定する。なお、必要予算は郵送代の1万円とする。

また、今回実施のかだつてレターについては11月1日発行の議会だよりに折込みすることとする。

【議会活動の見える化】

・政務活動費に関して領収書の開示請求の問い合わせも来ている。しっかりと取組みを進めていく必要がある。(中平浩志議長)

・書類整備が必要となるため、まずは今年度使途内訳明細書の公開を進めたい。これまで政務活動費の対象経費以外の領収書についても政務活動に付随した経費として同一保管してきたことから、今年度中に領収書類の分割整理を進め、次年度には領収書も公開できる計画でもっていきたいと考えている。(事務局 長内)

・会派単位で支給されていることから、各会派でそれぞれホームページを開設し領収書を公開すべきではないか。議会全体としての公開も必要であるが、会派・議員個々でも取組みを進める必要があるのではないか。(高屋敷英則委員)

・各会派で公開する場合、事務局による対象経費か否かのチェックが入ったうえで進めないと、対象経費以外の領収書が混在し、市民に混乱が起きるのではないかと。(城内仲悦議員)

・政務活動費について議会ホームページで公開することだけでは何か支障があるのか。政務活動以外の議員活動も見えるようにすべきという意図か。(豊巻直子委員)

・チェックシート中「解決方法」には、“会派又は議員の活動が見えない”とあり、議会全体だけでなく議員個々でも取り組むべき課題であるとする。(高屋敷英則委員)

・チェックシート中では“会派又は議員の行う政務活動が見えない”としており、政務活動費の公開を前提にした内容として、議会全体の取組課題と捉えていただきたい。(事務局 長内)

・議員活動は政務活動に限ったことではなく、政務活動以外の活動も見える化させる必要があるのではないか。(高屋敷英則委員)

・政務活動以外の活動の見える化は各会派の自由であって、まずは公費である政務活動費をきちんとしておく必要があるという点が重要だと考える。(城内仲悦議員)

・今後、各会派それぞれのご努力のなかで、政務活動費の対象活動以外の全ての活動についてお金の見える化・活動の見える化・成果の見える化が図られていけばよいと考える。(事務局 長内)

・チェックシートについては事務局調製案のとおり決定する。なお、優先度は上段B、下段A、達成目標は両項目とも平成30年3月とする。

また、各会派でも議員活動・会派活動の見える化について努力していくこととする。

【未成年を対象としたシティズンシップの推進】

・高校生かだって会議では久慈高生参加者は3年生が中心だった。今後は1、2年生まで対象を下ろし、進路決定となる前段階において定期的な開催を図っていければと考えている。(中平浩志議員)

・高校1年生ぐらいの早い時期の開催がよいのではないかと。参加した1年生が2、3年生になれば、次第に学校でも取り組みが認知され浸透していくと思う。(城内仲悦議員)

・肝心なのは定着することだと思う。3段階跳びで取組みを進めていくのではなく、高校生かだって会議を繰り返し行い、取組みとしての定着を図っていったうえで進めるべきではないか。(高屋敷英則委員)

・高校への出前かだって会議の取組みも進めていくべきではないか。(澤里富雄委員)

・高校生かだって会議の際、女子高校生に対し、ある議員が女性は結婚して子どもを産めばよいという発言をしたと聞いている。女性差別であるので、今後開催する際は気をつけていただきたい。(豊巻直子委員)

・チェックシートについて事務局調製案のとおり決定する。なお、優先度はA、達成目標は平成31年7月とする。

また今後、参加対象を広げ、出前開催も検討視野に年数回開催できるような取組みを進めていく。なお、高校生への発言のあり方についても事前の打合せ等でしっかり確認したうえで開催することとする。

【ICT利活用による審議・調査の充実】

・議員間のレベルの格差が大きいため研修の場をつくっていただきたい。(城内仲悦議員)

・なるべく議場でもタブレット端末を使うよう心がけている。慣れないと目が疲れるという点もあるが、個人的には100%ペーパーレスを目指したいと考えている。(中平浩志議長)

・議員はタブレット端末を使い慣れるよう努力すべきと思う。現在、100%ペーパーレスでないため、事務局ではデータ資料以外に紙資料も準備しなければならず、単に仕事の一つ増えたに過ぎない。進めるのであれば徹底的にペーパーレスを進めるべきと考える。(上山昭彦委員)

・同期システムを使って、同時に同一資料を見られるようになれば審議も充実すると思う。予算が確保できるのあれば、検討を進めるべきではないか。(上山昭彦委員)

・使い方に格差なく誰もが使いこなせる環境が整ってくれば、積極的に予算要求できる状況が生まれてくると考える。現在は無料アプリによるスケジュール・資料共有であり、使い方によっては安定性に欠ける部分もあり、有料システムの導入も今後の課題として浮上する可能性があると考え。(事務局 長内)

・チェックシートについて事務局調製案のとおり決定する。

【災害時の議会体制強化】

・中居副市長との話のなかで、議会が市災害対策本部に参加することは議会が傘下に入ることの意味しており、議会のあり方としておかしいのではないかとこの意見があった。(高屋敷英則委員)

・本部員として参加するのではなく、あくまでオブザーバーとして参加できないかという考えである。(中平浩志議長)

・今回、行政と議会の意思疎通が図られていなかったことが問題の発端となったわけで、参加するにしても工夫・検討が必要と考える。(高屋敷英則委員)

・対等な立場として参加するとなるといささか問題があるように思う。どのような立場で参加できるか研究が必要である。24時間体制で議長が参加することも疑問がある。(中平浩志議長)

・議会災害対策連絡会議の本部長として、議長が市災害対策本部に出席できないか。(城内仲悦議員)

・議会災害対策連絡会議の事務局として、市災対本部との情報共有そして議員間の情報共有が図れるように動いていた。今後、行政側でもICT利活用が進み、武雄市のように住民行政間での災害情報の双方向化が図られるようになれば、自ずと議会と行政の情報共有のあり様も変わってくる可能性がある。

また、東日本大震災を契機に、仙台市をはじめ市災対本部に議長が参加する議会も増えて

いるが、発生時初動期がいいのか、業務継続の安定化が図られてからの時点がいいのかなど場面場面で参加の重要度が変わってくることも考えられる。単に議長がオブザーバーとして参加していればよいということではなく、そのあり方について研究していく必要があるのではないかと。

また、そもそも議会災害対策連絡会議がどう機能できたかも研究する必要があり、対策マニュアルから逸脱し、直接市へ連絡要請を行う議員もあった。そういった事案が行政と議会の信頼関係構築にも少なからず影響してくる点でもあるので、しっかりと今回の事案を精査し、まずは議会内での情報共有の確立を図っていくことから、行政との協力関係をどう築くかを研究すべきと考える。(事務局 長内)

- ・まずは議会災害対策連絡会議の精査から進め、参加のあり方について研究を進めてはどうか。(城内仲悦議員)

- ・チェックシートについて事務局調製案のとおり決定する。なお、優先度はA、達成目標は平成31年7月とする。

(2) 「高校生×ギカイ」の検証について

- ・かだつて会議の開催前にも全議員で協議していることから、会議後においても全議員による振り返りの共有をすべきではないか。単に実施報告書の資料共有だけでは取り組みとして前に進まない気がする。(高屋敷英則委員)

- ・高校生かだつて会議に参加した議員で協議すればよいのではないかと。(澤里富雄委員)

- ・本日は事務局資料提供のみとし、次回改めて協議を行うこととする。なお、高校生かだつて会議に参加した推進会議以外の議員にも次回協議の際は出席要請することとする。

(3) 政策的議員提案条例の策定について

- ・台風10号被害により9月定例会議が変則日程となったため条例提案を見送っていたものがある。条例提案の時期について、あまり遅くなってもいけないと思うがどうか。(中平浩志議長)

- ・12月定例会議への条例提案でよいのではないかと。恐らく12月は災害関連議案の多い審議となると思うが、災害以外にも市政課題は常にあるわけであり、ただただ先延ばししておくわけにもいかないと思う。(高屋敷英則委員)

- ・市の産業振興にも繋がる条例であることから、12月定例会議に条例提案してもよいのではないかと。(澤里富雄委員)

- ・事務局調製案について内容が簡潔でよい。また基本理念を置いたのであれば、あえて前文を付ける必要もない気がする。(城内仲悦議員)

- ・前文を付けた経緯については白樺の樹液が発売されたこともあり、そのことを触れたかった狙いがある。前文にこだわるものではない。(澤里富雄委員)
- ・新政会が提案した条例であることから、提案理由説明は新政会会長にしてもらってはどうか。(城内仲悦議員)
- ・事務局調製案のとおり決定し、12月定例会議に各会派共同提案により発議することとする。なお、提案理由説明について新政会会長が行う方向で調整を進める。